

第3回東北地方コンパクトシティ検討委員会

議事要旨

日時：平成19年6月22日（金）15：30～17：30

会場：社団法人東北建設協会 3階会議室

1) 「東北地方の中小都市」のコンパクトシティ像

(委員) 合併旧市町村の拠点間の「都市機能の分担」の考え方が記述されていると良いのでは。

(委員) 広域的な連携や都市機能の分担については、P9の広域的な市町村連携の概念図に表現されている。

2) 「東北地方の中小都市」のコンパクトシティの目指すべき方向性について

(委員) 人口減少等により「中心市街地の再生と公共公益施設の再配置」が必要となることは記述されているが、再配置のもととなる生活圏(小学校区)の再構成について記述されていると良いのでは。

(事務局) 再構成について内容を確認し、記述する。

(委員) 「コンパクトシティの目指すべき方向性」の名称に「まちと里が共生するコンパクトシティ」が表現されているところがない。

(委員) 「コンパクトシティの目指すべき方向性」の箇所については、特に関係がある「市街地拡大の見直し」の見出しをかえてはどうか。

(事務局) 「市街地拡大の見直し」について修正する方向で検討する。

(委員) 「効率的・効果的な行政サービスの提供」が修正されたが、効率・効果は価値観であるため、“持続可能な”のほうが、色々な意味が含まれているので良い。

(事務局) 行政サービスはこれまで持続的に提供されてきたので、より具体的な表現として「効率的・効果的」を用いた。

3) モデル都市におけるコンパクトシティの検討の提言書への反映について

(委員) モデル都市での検討結果を入れたほうが良いのではないか。

(委員) 本稿に、“モデル都市検討を実施した”ことを表記するだけでも良い。

(事務局) 公表については自治体に確認して対応する。

4) 本提言書の今後の活用方法について

(委員) 都市計画担当者から次への浸透が必要である。(例：首長や議会)

(委員) 企画や農政担当者にも必要である。

(委員) 先生方も各方面で主体的に配布したらどうか。

(委員) 配るだけでなく、県単位で「講演会」や「説明会」を開くと良いのではないか。

(事務局) 配布するだけでなく、既存の講演等の場を活用して広めていきたい。コンパクトシティ研究会についても対象を、従来の10万人以上市町村から3万人以上に広げたい。